



AIZU/TOKUSHIMA

平成30年度第2回徳島県南部
地域医療構想調整会議

資料1

平成31年3月14日

入院患者実績調査報告及び平成30年度 病床機能報告（速報）の結果について

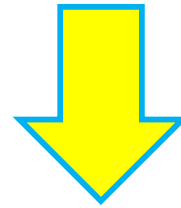
徳島県保健福祉部医療政策課

定量的基準を検討すべき？

平成30年度第1回徳島県 地域医療構想調整会議	資料4
平成30年10月30日	

- ・ 地域医療構想で定めた2025年の病床の必要量（病床単位・定量的）
 - ・ 毎年国に報告する病床機能報告（病棟単位・定性的）
- 算出方法が異なるため、単純な比較では誤解を生じるおそれ

他県例にあるような「定量的基準」は、病床機能報告のデータを関係者の理解が得られた基準により分析し、現状の医療機能や供給量を把握するための目安として活用することを目的としている



現状の医療機能をより簡便に把握するため、
「病棟単位」の病床機能報告を、
「病床単位」で把握することができれば有意なのではないか

入院患者実績調査報告①

平成30年度第1回徳島県
地域医療構想調整会議

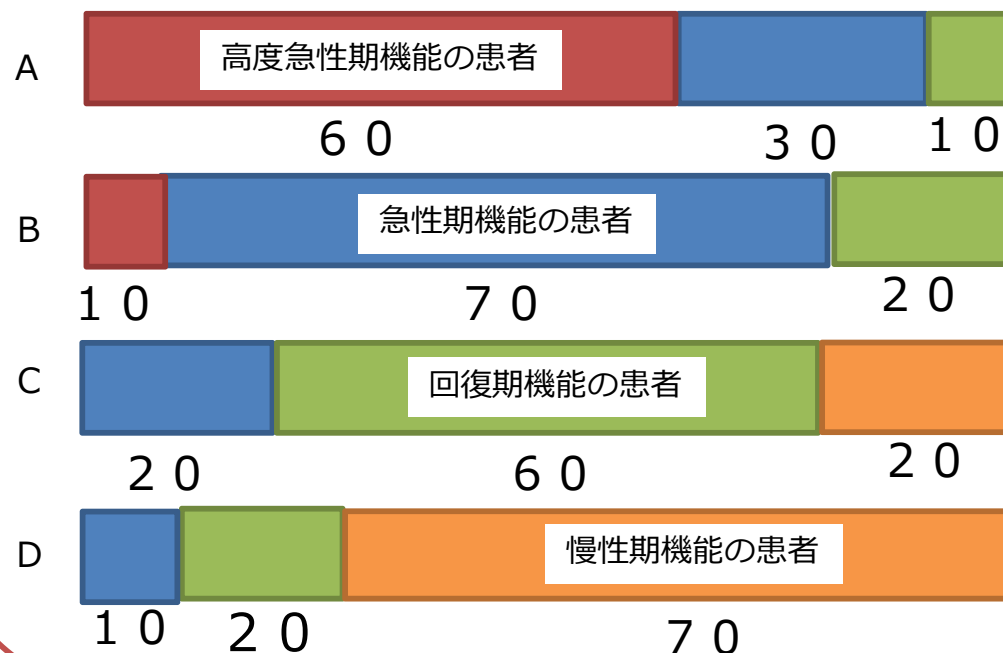
資料4

平成30年10月30日

病床機能報告は、病棟単位での機能区分別の報告であり、病床単位での報告ではないため、医療機能や供給量を協議・検討するための目安として、現状を共有するためのデータ・調査が必要であると考えられる。

その一つの方法として、各医療機関が病床機能報告（平成30年7月1日時点）をしていた際の元のデータである病棟ごとの、医療機能別の、入院患者数を調査する。

（ある病棟の患者構成イメージ）



各々の病棟については、

「高度急性期機能」 100

「急性期機能」 100

「回復期機能」 100

「慢性期機能」 100

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
病床機能報告	100	100	100	100	400
入院患者実績調査報告	70	130	110	90	400

入院患者実績調査報告②

平成30年度第1回徳島県
地域医療構想調整会議

資料4

平成30年10月30日

- 基準日は、平成30年7月1日時点（H30病床機能報告と同じ）
- 病床機能報告の元となる各医療機能別の入院患者数を報告
- 医療機能の判断基準は、病床機能報告と同じ（定性的）
- 病棟ごとの病床機能報告を、患者数→病床単位で把握
- 平成30年度病床機能報告と並行して実施。早期報告にもつなげる。

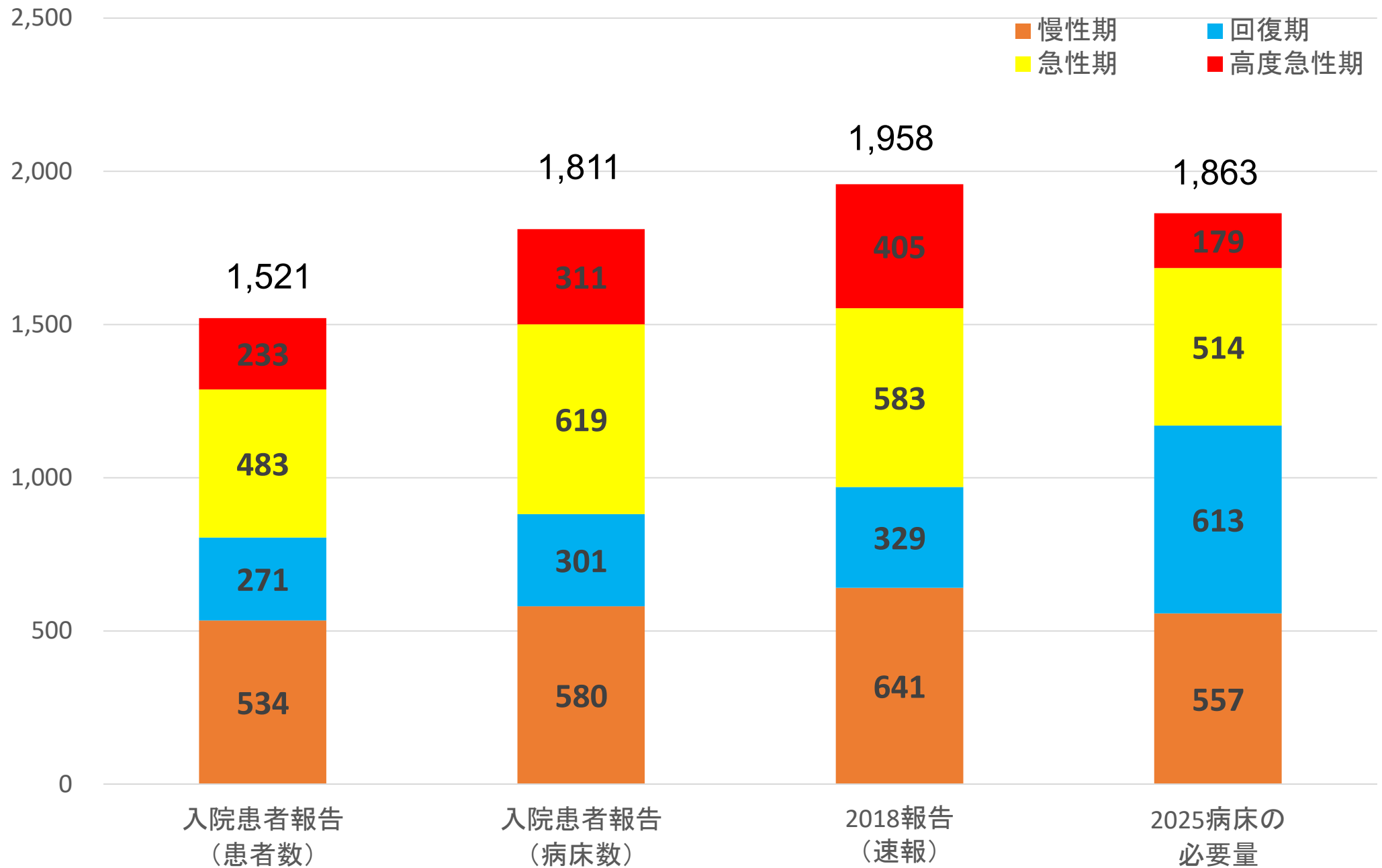
病院

病棟名	病床数	入院患者数				
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
A病棟	40		10	20	5	35
B病棟	40	5	10	10		25
C病棟	40		20	10	5	35
合計	120	5	40	40	10	95

有床診療所

病床数	入院患者数				
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
19			5	10	15

入院患者実績調査報告結果（南部）



入院患者実績調査報告結果（南部）

○報告対象： 25 機関（18 病院・7 診療所）・報告率：100%

○患者数 1,521 人

○病床利用率 69.2%（許可）・75.6%（稼働）

○病床数換算 1,811 床

※調査で得られた患者数を、病床機能報告の病床数や2025年の病床の必要量と比較するため、病床数へ換算する必要がある。換算にあたっては、地域医療構想ガイドラインで定められた病床利用率（高度急性期75%・急性期78%・回復期90%・慢性期92%）で割戻して計算した。

○2018病床機能報告（速報）との比較では、高度急性期＋急性期の合計病床数では▲58床、回復期の病床数は▲28床、慢性期の病床数は▲61床。

○2025年の病床の必要量との比較では、全体で▲52床となり、高度急性期＋急性期の合計病床数は＋237床、回復期の病床数は▲312床、慢性期の病床数は＋23床。

○急性期と慢性期の乖離幅は小さくなることから、入院患者実績調査による病床単位での現状把握により、病床機能報告の結果でみるよりも、実態は病床の必要量に近い状況であった。

平成30年度病床機能報告（速報）の結果について

報告状況（H31.2.15時点）

- 報告対象医療機関数 25 機関（18 病院、7 診療所）
- 未報告医療機関数・報告率
様式1 0 機関（100%） 様式2 4 機関（84.0%）

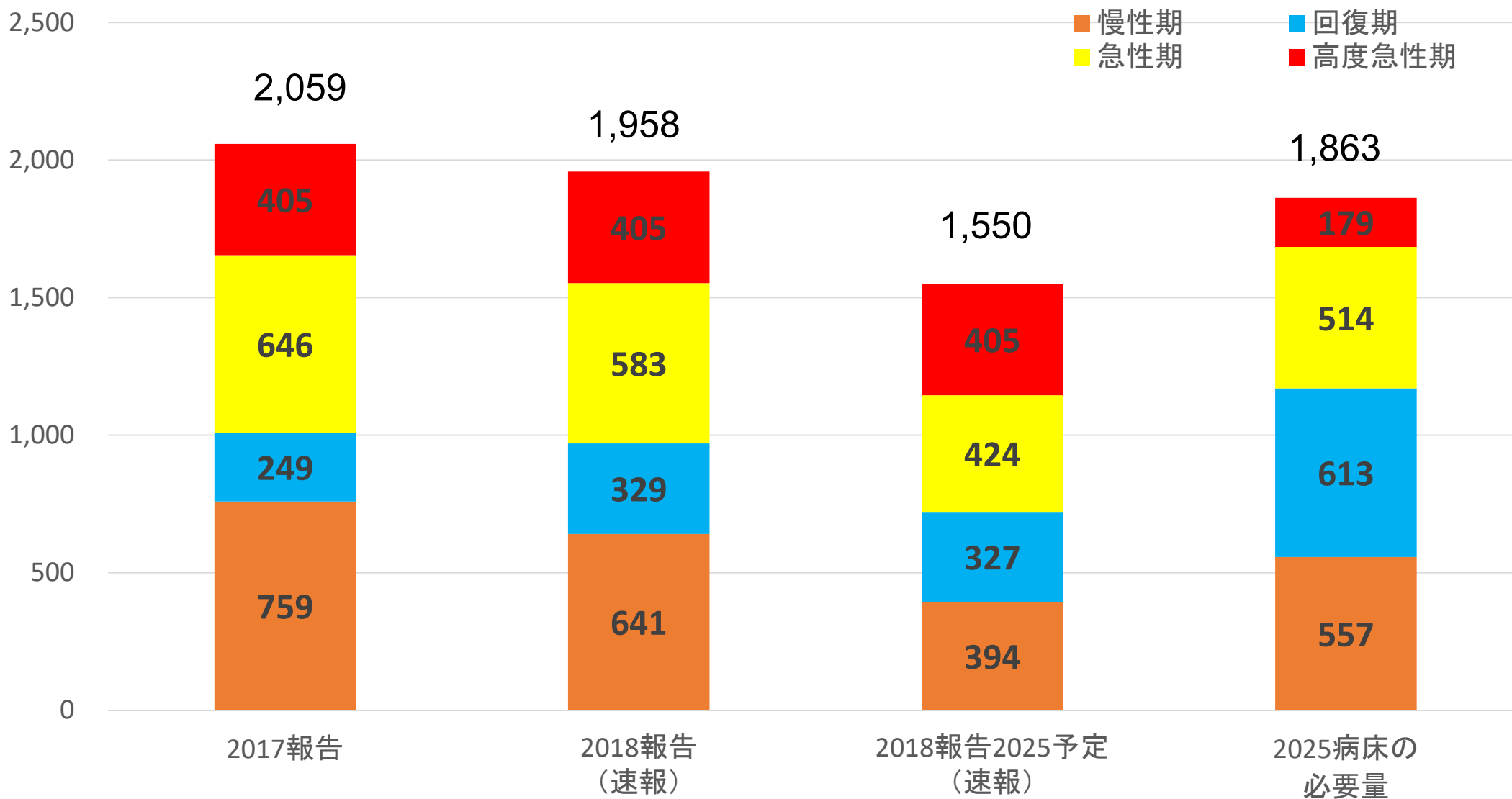
結果速報（H30.11.15時点）

※国の集計の都合上、病床数の速報値は11月15日時点のもの

- 未報告医療機関数 2 機関（1 病院・1 診療所、101 床）
- 報告率 92.0%

病床機能報告による病床数と病床の必要量との比較（南部）

○2025年予定病床数は約400床減少するが、病棟内病床数の減少（約300床）、介護保険施設への転換（約100床）などによる。



平成30年度病床機能報告（速報）の結果について

○今回の速報値は、H30.11.15時点のものであり、2医療機関・101床分が未報告のため、病床数総数の捉え方には注意が必要。

- 2025年の予定病床数は現状の病床数よりも大きく減少。
- これは、調査様式が変更され、2025年に予定している病床数を記載できるようになったことによるもの（病棟の一部縮小又は一部休床を反映）。
- 介護保険施設等への転換も南部圏域で約100床と報告。

○未報告医療機関に対する督促等を行い、報告率を100%にすることで、最終報告結果を元に、より詳細に報告したい。